

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

中野市立南宮中学校

B-14

【活動名】 学校のお金の流れを変える プロジェクト

解決すべき課題：

「朝少し早い時間に学校に行って授業準備をしようと思っていたら、未納家庭の生徒が現金を届けにきた。領収書を記入したり金融機関に入金する処理をしていたら授業の準備ができなかった。このようなことが何度もある。校長先生、集金のこと何とかならないでしょうか？ 集金業務で1年間が終わりそうな気がします。」ある学年の集金担当教員の声が校長室から聞こえてきます。

学校で集金しなければならない教材費や給食費。これらの集金業務を教員が授業や学級事務の空いた時間に処理し、金融機関に出向いたり未納家庭に連絡をする等の状態が大規模校である本校は何年も続いてきています。しかも、教員の本務ではないので集金の方法や処理について検討したり、誰かが改善を提案するわけでもなく、前年踏襲で何とか1年間を過ごすしかありません。また、学校集金といっても未納状況と就学援助、保護者負担と公費予算、適正な会計処理等多くの関連する業務を含んでおります。これらも含めた解決すべき課題に対して、学校集金業務の流れ（仕組み）を校内に新たに作ることで教員の本務である教材研究や授業準備の時間の確保に向けて動き出しました。

目的や背景：

本校は大規模校であり、学校集金業務をつかさどり改善を行うには大きなエネルギーが必要だったと思われます。学校集金業務を効率的に実施しようとするのは教員には困難です。学校の職員の中でこの業務に関わり改善できる可能性があるのは学校事務職員のみです。しかし、学校事務職員も経験がなければ問題解決のイメージがつかめません。まして大規模校の学校集金業務をつかさどるようになれば、その大変さが自分に降りかかってくるのは目に見えており、躊躇してしまうことでしょう。「学校集金のデータ作成」「未納者対応や処理」など考えただけでも膨大な業務がイメージできます。教員の負担軽減を求めて文部科学省が学校の集金業務について市町村教育委員会が直接担うべきとの方針を平成 29 年 9 月に決定したことも納得できます。

このような状況下で、自分からこの課題を解決しようとする教員や学校事務職員など望めないこと、請け負ったとしても学校事務職員一人に負担がかかってしまうこと、学校集金業務のノウハウが学校にないことがこの課題の背景だと思われます。担当教員、学校事務職員一人に負担させない。学校の組織としてこの課題を考える。保護者にも負担を求める。複数で処理に当たる。学校の集金業務を適正にできるようにするためのどうすれば良いか考え、活動を始動しました。

活動内容：

校内には学年会計委員会が設置されていましたが、その委員（係）を束ねて課題を解決していく担当がいませんでしたので、4 月に赴任したこの課題に対するノウハウを持つ学校事務職員に改善策を提案するよう求めました。学校事務職員は下記のように本校の課題を整理しました。

- ・指定する（口座振替を契約する）金融機関が多く、データ作成が大変である。
- ・給食費と学年（教材）・旅行費を別々にデータ作成して口座振替で集金している。
- ・未納通知（督促通知）は学年の会計担当者がそれぞれの様式で作成し通知している。
- ・未納金を生徒が直接現金で学校に持ってきている。
- ・学年・旅行費の支出の際の決裁や確認を複数で実施していない。
- ・未納の回収が遅れてしまっている。

これらの課題に対して平成 28 年度の早い段階で「指定する金融機関を 2 つに限定」「未納通知を統一様式で学校長名で通知」「未納金を振込で支払うことを保護者に依頼」「未納者対応を教頭と事務職員で実施」することを始めました。そして、校内の検討委員会、PTA の役員会を経て平成 29 年度に抜本的な改善を下記のように行いました。

- 1 給食費、学年（教材）費、旅行費等の集金業務主管を事務室（事務職員 2 名）が行います。
- 2 給食費、学年（教材）費を合計金額で口座振替で実施します。旅行積立集金は旅行者の旅行積立サービスを利用します。
- 3 集金回数（口座振替回数）を「年間一括」と「毎月」を設定し、保護者が選択でできるようにします。
- 4 集金業務を効率化するためにインターネットバンキングを利用し、口座振替データ、集金額の資金移動、業者への振込を行います。
- 5 学年費や旅行費の収入支出の際の確認や決裁を複数で行う事務処理の流れを校内に定着させます。
- 6 未納金振込専用紙を作成し保護者が直接、金融機関の窓口で振り込むようにします。
- 7 未納者対応では教頭と事務職員が夜間の電話連絡、個別懇談会後に相談等を担当するようにします。
- 8 集金内容について、PTA 総会や入学説明会において事務職員が保護者に説明します。 等

活動の成果：

教員の手から口座振替のデータ作成、未納金処理、業者への支払い等の集金業務が離れ、本来の授業準備や学習支援活動に集中できるようになりました。また、校内のお金の処理の流れができたことで、校内で現金を扱うことがなくなり現金事故の心配もありません。事務職員が運営の中心になり、未納保護者の対応等で教員と保護者の関係性が崩れることもありません。教員は本来の職務に専念できる環境が整い、事務職員が学校の公費予算と学年（教材）費を総合的に把握（確認）することで、公費私費区分を適正にし、予算執行を効率的に進めることができるようになりました。

アピールポイント（アイデア）：

アピールポイントは学校のお金の流れを適正に処理でできるようにしたことで教員の多忙化や不安を改善し、教員が本来の活動に専念できる時間が増えたことです。学校は教育活動を創り上げる場ですので教員が多い反面、教育を支援するスタッフが少ない状況です。そのため、必要な教育条件等のルールが教員中心で作成されたり、未整備だったりすることが多いです。ノウハウを持つ専門スタッフが課題を解決し、流れを作ることが重要です。

学校のお金の流れを変えるプロジェクト イメージ図

教員

今日の授業の予定は？
(ゆとりを持って)



- ・年間指導計画と照らし合わせて
- ・指導書も確認



授業

- ・教材や資料の印刷
- ・単元ドリルの準備
- ・授業構想メモの作成



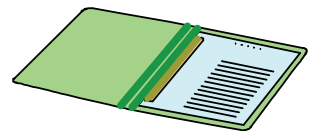
授業の準備もできないよ

学年会計担当

- ・学年（教材）費・旅行積立費
- ・給食費、学校に必要な経費だけど
集金や会計のノウハウがないよ...

集金業務

- ・口座振替データの作成
- ・未納督促通知
- ・持参した現金の処理
- ・業者への支払い
- ・金融機関との連絡調整



事務職員主体の集金（予算）運営

校内のお金の流れ（仕組み）を変える



どんな授業にしようかな？

教員



学年会計担当

- ・業者への発注
- ・予算・決算書作成
- ・収入支出決裁書作成

公費予算

- ・公費私費区分
- ・学校全体予算把握

事務職員



旅行者

銀行

業者

保護者

総合予算をマネジメント

集金業務

- ・旅行積立サービス導入
- ・インターネットBK利用
- ・集金データ作成
- ・未納督促通知発行
- ・業者支払い（振込）
- ・集金回数を選択
- ・収入支出決裁
- ・未納保護者対応
- ・保護者向け集金説明

